



2014・8・25.

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイム月8月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明

http://www.centergai2.com E-mail:centergai2@nifty.com

### ★盛夏でも頑張りました！恒例 街ぐるみの献血運動

残暑が厳しい日々ですが、8月8日（金）に今年も街ぐるみで献血活動を応援する活動が行われました。例年、真夏の厳しい暑さ原因で成分献血や400ml献血もその数が減少し、医療機関での活動に支障を来しかねない状況を生み出しています。現状では緊急時に対応するためのストックにまで手をつけざるを得ないのだとか。そのため来街者に私達の街の献血ルームの存在をより広く知って頂き、献血に参加して頂くため、特に若い世代への啓もう活動に力を注いでいます。今年もザ・ファーストが中心になり、汗が噴き出す中を積極的に人々に呼びかけました。どうかこの現状をよくご理解頂き、御協力をお願いいたします。尚、当日は献血受付が68名で、実際に400ml献血をして頂いた方は51名でした。貴重なお時間と献血をありがとうございました。



### ★幻の神戸百景展

センター街2丁目東西入り口上の空間に大きく飾られているステンドグラスが神戸を愛された川西英先生の「神戸百景」の作品であることは皆様も御存じだと思います。その川西英先生の生誕120周年記念として8月22日から9月2日（火）まで、さんちかホールにて「幻の神戸百景展」が開催されています。神戸百景は1962年に出版されましたが、その企画から発行まで約10年かかり、その間の神戸の街の大きな変化による修正や書き直しのため最終的に20数点が画集から外されたのだそうです。この度、その20数点が川西英先生の遺したカラーポジフィルムの中から見つかり、言わば「幻の神戸百景」が展示されているのです。昔懐かしい魅力溢れる神戸の街並みをご覧になれるので、さんちかホールに是非足を運んでみてください。



御影公会堂

幻の神戸百景展：さんちかホール 9月2日（火）まで 10:00～20:00（9月2日は18:00まで）  
プレゼント抽選会（土・日限定）スルッとKANSAI（神戸百景デザイン1000円分）  
が100名の方に抽選でプレゼントされています。

問い合わせ先：神戸市総合コールセンター Tel 078-333-3330

### ★オリンピア兵庫10周年記念式典 "Olympia Market!!"

高齢化社会になり、来街者の中にも高齢の方々が増えつつある現状ですが、「人にやさしい街」を目指す私達の街ではその様な方々にどのように接すればいいのかを勉強会でも折に触れ研究しております。その様な御縁もありこの度、8月9日（土）に社会福祉法人光朔会の高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫10周年記念式典 & "Olympia Market" にお邪魔してきました。当日はあいにくの台風接近で大雨でしたが、神戸市会議員の守屋氏や兵庫区保健福祉部長の堀氏など多くの方々がお祝いに駆けつけておられました。冒頭、光朔会常任理事でオリンピア兵庫の館長、山口幸氏が新しいコンセプトの福祉施設を創ろうとされたために、オープン時の国との間での認可を巡る苦労話や、その後多くの外国からも研究に来られる程、成功を納めておられる現状についての御説明もありました。オリンピア兵庫さんのコンセプトは「高齢になっても、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けるお手伝いがしたい」というもので、まさに現代社会が必要としているハウスです。式典の後のイベントは高齢化社会の先進国スウェーデンを意識したテーマ"Swedish Summer"となっていて、北欧気分をたっぷり味わって、暑さを吹き飛ばしましょうというものでした。楽しいプログラムでは2コマ漫画教室やスウェーデンの夏の風物詩となっているザリガニパーティーもあり、バザールではデザ



イン性の高い北欧雑貨や手作りアクセサリ、それに丹波にオープンした Olympia Farm 直送のお米や、木工品など盛り沢山の品物が販売されていました。加えてミニコンサートもあり、思う存分北欧気分を味わって来ました。こんなに楽しませて頂けるスタッフが揃った Olympia 兵庫さんなら、自身も将来お世話になるかも？と安心になりました。その節はよろしくお願いいたします！

ホームページ(<http://www.oilmpia.or.jp>)

住所：神戸市兵庫区小松通 5-1-4

TEL 078-671-7065



### ★東日本大震災復興支援 被災地の子供達へ紙芝居を！

画家でイラストレーターのはせがわいさおさんは妻の芳見さん、それに娘さんの祐希さんと三人で「はせがわファミリー」として 2011 年より岩手・宮城・福島の三県を中心に、自作の紙芝居を贈る「スターリイマン紙芝居プロジェクト」を行っています。その「はせがわファミリー」さんに 5 日（火）の三宮街創り協議会とザ・ファーストとの合同勉強会で、その活動内容を紹介して頂きました。「スターリイマン」とは作品の中に登場するキャラクターで、夢を叶える 9 つの風船を届ける旅をしているというものです。祐希さんの友人が小学生の時に阪神・淡路大震災で被災し、当時避難所を訪れてくれたボランティアの方が読んでくれた紙芝居が心の支えになったことを教えられ、彼女からの「スターリイマンの紙芝居を作って、東北の子供達に送riませんか？」という言葉が切っ掛けになり、この活動がスタートしたそうです。



紙芝居は希望者に 2 冊 1 組で購入して頂き、1 冊は購入者へ、もう 1 冊をはせがわファミリーさんが各被災地を訪れた際に、紙芝居のライブを行いながら子供達に届けておられるそうです。祐希さんのナレーションも素敵でしたが、印象的だったのは「ストリートオルガン」と呼ばれる手回しの楽器による演奏でした。子供さん達だけでなく、大人もその音色に思わずストーリーに引き込まれていきます。はせがわファミリーさんは来年の 1 月の「夢・未来号」にも参加してくださる予定で、よりこのプロジェクトに厚みが増して行くことになります。これからはせがわファミリーさんのご活躍を応援して行きたいと思っています。



### ★脱帽！ 澤田顧問の「庄屋・大庄屋の考察」を読んで

当振興組合の顧問で元（株）サンセンタープラザ社長の澤田秀雄さんがこの度、加古川を中心とした表記の論文について永年に亘って研究・調査され、まとめられました。早速拝読致しましたが、粘り強い古老への聴き取りと各種文献への探索を通じ、この地域のかつての行政制度が浮かび上がり、今なきなければならないこの種の地味な努力の大切さを実感しました。今改めて注目を集めている柳田國男、宮本常一氏達の仕事と通じる刺激的な一文献でもあり、何よりも飽くなき学問への意欲を燃やされる澤田顧問の姿勢に大きな敬意を覚えます。澤田顧問は今回の文献で全国の「第 17 回図書館を使った調べるコンクール」で佳作を受けておられますが下記に「町の表彰」についての詳細も詳しくお知らせいたします。



表彰者：播磨町教育長、播磨町立図書館長

受賞名：「第 4 回播磨町図書館を使った調べる学習コンクール」

作品名：郷土の歴史を学ぶ

### ★編集後記

本当に暑いですね。その暑さが和らぐのももうすぐなのかと思うとホットします。本文中にも触れましたが、日本赤十字社の方によると、最近の血液不足は神戸だけではなく、全国的に同じ傾向にあるそうで、真夏はもちろんの事、年中不足しており、年々その傾向が強くなっているのだとか。もちろん以前と違い、被献血者の安全を確保するために、スクリーニングの基準が厳しくなっているのも一つの原因だとは推察ができます。しかしながら東日本震災時には高かったボランティア精神が少し薄くなって来ているようにも感じられます。日本は災害大国ですから、いつ何時自身が、あるいはご家族の方が血液を必要とする局面に立たされるかもしれません。そのため特に健康で若い方の御協力を切にお願いしたいと思っています。